

コロナ禍における大学教育 —遠隔授業とオンライン・シンポジウム—

University education in Corona (COVID-19) related confusion
—Remote teaching and Online symposium—

永 松 敦

コロナ禍による大学の遠隔授業は、現在、社会問題化している。教員と学生、そして、学生同士が対面することがないまま 2020 年度の前期授業は終了した。後期となり、やや対面授業の兆しが見えたものの、まだ全面的な解禁にはほど遠い状況である。こうした状況下で、オンラインによる教育・研究効果は得られないものか、を探るために、日本・中国・韓国と結びオンライン・シンポジウムを実施した。この発想はゼミ生による韓国、蔚山大学校の学生との交流から生まれたものだった。そこに、日中韓の研究者が集まり、壮大な「十五夜シンポジウム」へと発展していった。コロナ禍がなければ、到底、誕生しえないシンポジウムであり、将来の国際間の共同研究への道も開拓された。

現在、文部科学省が、対面授業が 5 割未満の大学を公表する方針を打ち出していることが話題となっている。果たして、遠隔授業は、対面授業よりも効果は低いのだろうか。遠隔授業には対面授業にはない可能性を秘めているのではないのか、こうした視点から研究ノートとして実践例を書きとどめておくことにした。

キーワード：コロナ禍 遠隔授業 共同研究 十五夜行事 中秋節 秋夕

目 次

- I はじめに
- II 遠隔授業の可能性
- III 東アジア十五夜行事研究の将来性
- IV おわりに

I はじめに

2020年1月、日本に初めてコロナの感染者が確認されてから今日に至るまで、これまで想像もしていなかった生活の変化が起こり、その影響が今日まで続いている。現在、高校までは対面授業に戻ったものの、大学においてはいまだに遠隔授業が継続され、重大な社会問題として取り上げられている。本学もその例外ではなく、2020年度、前期はすべて遠隔授業、後期は少人数の授業だけ一部、対面授業が許可されているが、それは各教員の判断に委ねられており、少人数であっても遠隔授業を継続しているケースも見られる。

さて、この異常事態の中で、正常な大学教育を実施し、かつ、人的交流を活性化するために何ができるか、を模索する必要があった。幸い、本学3年生に中国からの私費留学生在が2名含まれており、日中の共通文化を研究することを試みていた。そこで、十五夜、中秋節の研究を考案したところ、学生の方から本学との提携校、韓国の蔚山大学校に友人がいるというので、すぐに連絡を取り、2名の学生さんに参加していただくことになった。瞬時にして、日中韓の学生たちによる共同研究チームができあがった。

そこで、日本の説話伝承学会などで活動されている中国と日本の説話伝承の比較研究で著名な項青先生（熊本県立大学講師）に参加していただくことになった。韓国に関しては、日本で民俗学を勉強された韓国出身の掘尾里美さんに依頼をして参加していただく予定だったが、お住いの人吉豪雨の被害により、今回は参加を見送られた。そこで、韓国の実状について、韓国安東市君子村の古民家で伝統文化を継承されている全慶北文化コンテンツ振興院長（元韓国EBS制作局長）のキムジュンハン氏にご無理を言って参加していただくことになった。このため韓国語の通訳が必要となり、項青先生の友人である熊本大学講師の金敬淑先生にも加わっていただくことになった。

コロナ禍によるZoomの普及により、世界各地の方々と瞬時にネットで結ばれるという幸運に恵まれた。さらに、たまたまFacebook上で知り合いになった、大阪で在日朝鮮人の人権問題で活動をされている李信恵氏にもご参加いただき、在日コリアンの方々の秋夕（チュソク 韓国の十五夜）の行事内容を報告されるという幸運にも恵まれた。

アジア各国の旧暦8月15日の行事内容や神話・伝説がZoomを通して伝達され、その内容も深く多岐にわたっていった。すると、項青先生の方から、中国国内の大学とも文書で依頼すればZoomでつながることができるという提案を受け、早速依頼したところ、広西大学外国語学院助教授の秦璞先生、広西民族大学東南アジア学院助理研研究員の潘艶賢先生というお二人の先生方をお迎えすることができた。しかも、タイとベトナムの中秋節のお話をしてくださるという。広西壮族自治区には25年ほど前に、芦笙祭でお邪魔したところだが、桂林からさらに南へ、途中1泊して入ったかなり奥地になる。そこともZoomでつながるといふ素晴らしい時代の到来である。

上述したような準備を経て、10月3日（土）に無事、シンポジウムを開催された。

本研究ノートでは、（１）遠隔授業の可能性（２）東アジア十五夜行事研究の将来性について述べることにしたい。

II 遠隔授業の可能性

遠隔授業は何も今にはじまったわけではない。放送大学、各大学の通信教育も、遠隔授業の範疇に入る。全国に電波を飛ばして授業を行う放送大学では山間部や離島部に居住する住民に対して幅広く大学の専門教育を受ける機会を生み出した。これにより、各地で大学卒の有資格者が現れ、そのなかには文化財担当職など社会で活躍する人材を輩出することにつながっている。但し、これは双方向ではないため、時折、面接授業を取り入れたり、各都道府県に設置されている学習センターを常時機能させ、学生への利便性を図ったりもしている。通信教育も幅広く行われており、社会人による図書館司書・博物館学芸員などの資格取得者も多い。また、本科生で学ぶ社会人も多く、各分野で活躍する人材を多数輩出していることは、周知の通りである。

このように従来から遠隔授業が既に行われているにも関わらず、今回、コロナ禍による大学の遠隔授業だけがなぜクローズアップされ批判の対象として問題視されなければならないのだろうか。すでに、小学校から高校までは対面授業に戻しているにも関わらず、何ゆえに大学だけが対面に戻せないのか？といった素朴な疑問に答えられていないといった事情も理解できる。

大学の場合は他県から通学する（宮崎県の場合はまず可能性は低いですが）、あるいは、大人数での教室のソーシャル・ディスタンスがとりにくいといった様々な要因が重なっていると言われる。ただ、地域活動をしている私の経験からすると、小学生に田植えと稲刈りの実習を年2回実施していて、どの作業も児童たちは体を接触させて作業をしている光景を目の当たりにすると、なぜ、同地域の小学生にはこの体験活動をさせることができ、自らの大学生に対しては何もしてはならないのか？ということに大きな疑問を抱かざるを得ないのは当然である。

この事態、民俗学の観点からすると、まさしく、忌籠りの状態だと言える。即ち、疫病が流行すると、茅の輪神事が行われる。茅の輪とは、カヤで作られた輪で、現在、コロナ禍により、6月30日の大祓の各神社で盛んに執行されている。茅の輪が疫病除けと関わるのは、『備前国風土記逸文』に残る蘇民将来の説話によるものなのだが、茅の輪とは、カヤの輪、即ち、ススキやアシなどのことであることを忘れてはならない。さらに言えば、チマキ（粽=茅巻き）であって、竹の皮や笹の葉とともに、アシの葉も使われていることも重要である。このことは、カヤそのものが疫病除けと深く関わっていることが認められる。中国でも端午の節句では家の入口の扉に蓬と菖蒲の束を飾る習慣があり、南部ではレモングラス（香茅草）を使うところもある。日本の場合は屋根から妖怪が侵入するとされ、そのために、中国とは異なり、屋根に茅や菖蒲を突き刺したという研究もある（山本陽子「説話と絵画に見る屋根・天井・軒における怪異」『説話・伝承学』

22号2014年)。

このように見ていくと、十五夜の月見に、ススキを供える習俗も深く関係してくることが見えてくる。つまり、コロナ禍により、疫病除けから茅の輪、そして、次節で述べる十五夜の行事は、カヤという脈絡で結ばれた一連の文化なのだということが認められる。

平安期の都人たちは疫病除けとして祇園御霊会を行った。これが現在見られる祇園祭りの原型である。当時は煌びやかな山鉦や山車はまだ見られない。子供たちが小枝を持って市中を歩き、悪霊を小枝に寄せ付けて川に流す神事でしかなかった。その行列のなかには、獅子舞や田楽などの諸芸能が演じられ、多くの観客で賑わっているのが認められる(『年中行事絵巻』)

この祭礼が中近世を通して華やかとなり、大型の山鉦へと発展する。つまり、疫病によって抑圧された生活から解放された華やいだ文化が誕生することになる。京の祇園の山鉦文化は、北九州の小倉祇園太鼓、博多祇園山笠、さらには、佐賀、長崎に至る北部九州において熱気あふれる様々な祇園祭りを誕生させることになる。

一言でいえば、「疫病が生んだハレの文化」である。今、コロナ禍において、何が重要かと言えば、この自粛という忌籠りの期間が、「次にどのようなハレの文化を生み出すのか？」なのである。今まさに文化創造の大転換の時期にきていると言える状況だということを強く認識しておく必要がある。

現在、Facebook上で2万余のメンバーを集める「新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ」(<https://www.facebook.com/groups/146940180042907>)では、国内外の大学関係者から様々な授業での取り組み方が報告され、議論されている。ここで、筆者が取り組んでいる授業例を投稿した。

投稿1

2020年9月21日

宮崎公立大学で民俗学を担当している永松敦です。

担当する「現代民俗学」の授業で、平常は「地域づくりと生活をテーマ」に進めているのですが、今回はコロナにあわせて、地元の疫病信仰を調べるように指示。大学近辺でなく、実家で過ごしている学生も多いので、地域の特性を知ってもらおうと企画しました。

10月3日の十五夜シンポに合わせて、現代民俗学で急遽、テーマを変更した「疫病信仰」のレポートを有志14名がポスター発表します。

疫病が流行したことで、祇園祭りが生まれます。もちろん、死者が続々と現れる時期には大きな祭りなどは生まれません。しかし、時がたつと、京都や博多のように大規模な祭礼へと変貌と遂げます。そういう意味では、現在のこの忌籠りのご時世は、のちのちの華やかな文化が開花する基盤づくりの期間と位置付けてよいでしょう。これからどのような未来が拓けるのか？楽しみでもあります。

さらに、同グループのある教員のコメントには、筆者は下記のようにも述べた。

投稿 2

2020年10月25日

私は学生の辛さを受け止めるのは大事だと思っていますが、高校生までとは違い、法的には成人なのでそこからそこは高校生までの教育とは違う方法をとらないといけないと考えています。コロナという未知のウイルスの恐怖というのは、学生だけが人生を狂わされたわけではありません。世代や国や地域を問わず同じ問題にぶち当たっているのです。だから、私が学生に力説しているのは、教員側も遠隔で、海外とつないだり、他大学のゼミとつないだり、様々な取り組みをして世界を広げようと試みているので、学生からもこの難局を乗り切るために様々なアイデアを出してほしいと言っています。この非常事態を乗り切るためには、学生と教員が協力し合って乗り切るしかないのだ・・・闘う仲間なんだ（私は本当にそう思っています）という意識で立ち向かうしか術はないのではないのでしょうか？私は民俗学ですから疫病除けの信仰や祭礼を扱いますが、まさに、京都の祇園祭りなどは疫病除けから生まれた祭りなのです。おそらく、京の街にバタバタと人が行倒れ死にゆく姿をまのあたりにして、耐えに耐えたあとに生まれた豪華な祭礼なのです。今、耐えに耐えた世代が次の明るい未来への先導者となっていくのです。それは歴史が証明しています。その一員となるための、めったにない機会をいま与えられているのだ！という意識を自分も含めてすべての人類に持ってもらいたいと思っています。

コロナ禍は、病原菌の違いはあれ、疫病という観点で見直すと、何も今回にはじまったわけではなく、人類の長い歴史の中で未知のウイルスとの遭遇は常に付きまとっている事象である。人類はそれを何度も乗り越えて、それに適応する生活スタイルや信仰・文化を構築していった。今、我々の世代はこの危機的状況を耐え抜く義務が課せられていると言ってよい。

今回、現代民俗学の授業では、各学生の地元の疫病信仰について調査する課題を与えた。全学生が実家に留まっている者もいるため、地域は限定しなかった。すると、全国各地の興味深い疫病信仰の事例が集まった。これを後述する、「十五夜オンライン・シンポジウム」の前段として希望者のみ紹介することになった。発表はポスター発表の形式をとり、解説は筆者が行った。内容は以下の通り。

ポスター発表 コロナ禍の疫神信仰

1. 王 安 琪 香茅草（レモン草）
2. 王 翔 宇 菖蒲とヨモギ
3. 藤田 佳子 流鏑馬—疫病退散祈願—

4. 山田 麻結 田元神社
5. 脇元 碧希 高木兼寛(タカキ カネヒロ)について
6. 佐藤 もも 都城地区の疫病除け
7. 田中 里沙 餅勧進(もっかんじん)
8. 海江田 紫苑 霧島岑(きりしまみね)神社(じんじゃ)
9. 橋口 美空 鹿児島「おぎおんさぁ」
10. 高峯 菜央 射(い)楯兵(たてつわもの)主(ぬし)神社(釜蓋神社)
11. 古澤 果林 福岡の厄除けについて
12. 久家 三奈 戸畑祇園大山笠について
13. 原 さくら 戸畑祇園山笠
14. 山根 帆乃夏 日御碕神社

こうした学生が各地に散在している状況下で、本ゼミ生から韓国 蔚山大学の友人と zoom でつながり、授業に参加できたことは、まさに、この状況下で学生が生み出した新たな授業運営スタイルの誕生であった。この点については次節で詳述することにして、ここではもう一つの実践例を紹介したい。

筆者は民俗学とともに、現代民俗学と実践民俗学という授業を担当している。現代民俗学は現代社会における様々な課題を民俗学の視点から捉えなおす、というもので、実践民俗学はその地域に伝承された民俗を今日どのように機能させることができるか、を問う目的で行っている。実践民俗学では、筆者が所有する畑で栽培している鶴首カボチャやニンジン芋(隼人芋)の収穫をして、それを伝統的な調理法と、若い世代による新たな発想での調理法の二種類で調理して試食することを行う。ところが、このコロナ禍で野外実習が不可となってしまった。そこで、筆者が受講生全員分のカボチャの収穫をして、集密を避けるために、時間をずらして二人一組で研究室に招き、学生に鶴首カボチャの形状を見せてから、学生に包丁で二人分に切り分けて袋に持って帰らせるという方法をとった。実際に包丁を入れることで、カボチャの質感に触れることができるからである。まず、その形状から「初めて見た!」と驚きの声が上がリ、緑の皮に白の線状の模様がついているのが美しいと言う。そして、包丁で切ると、他のカボチャになり柔らかさに触れることになる。色のきれいな柔らかい質感のカボチャということが、実際に包丁を入れることができる。この質感に触れて、料理には何がいいか?を直感で見つけ出す学生が多い。伝統的な炒り子だけで似た調理法については映像資料があるので、それはあらかじめ授業で見せている。このため、伝統的な調理法と、スープ、ケーキなど現代的な加工を凝らした作品が数多くお目見えした。

以下に、受講生の感想の一部を紹介する。

感想 1

鶴首カボチャは別名ひょうたんカボチャと呼ばれていて、ヘタに近い細い部分が甘くて、下の大きい部分がわたになっていて種が詰まっていてきめ細かいのが特徴だと知ることができた。

感想 2

昨日、先生の研究室に行き、かぼちやを友達と受け取りに行った際、包丁で書き示してあったように二人で半分にわけたのですが、そのかぼちやの断面の色鮮やかさにとても驚きました。

感想 3

このように、美味しい野菜が作り手の不足によって受け継がれることなく消えてしまうことを止めることはできないのでしょうか。

感想 4

今回の授業では、みんながどんな料理をつくったのか知ることが出来ました。私はパンプキンケーキをつくったのですが、みぞれ煮やパイなど様々な料理をしている方がいました。かぼちやはどのような料理にも使用することが出来、汎用性がある食材であり、栄養価も高く素晴らしい食材だと再認識できました。

商品化については、保存のしやすいケーキやマフィンがよいのではないかと考えます。手に取りやすいサイズにすれば老若男女問わず買い求めやすいのではないかと考えます。

感想 5

鶴首カボチャを使って、ドーナツを作りました。普段、全く料理をしないのでかぼちやを切るのは難しいかなと思っていました。しかし、いつものカボチャ本体も柔らかくて切りやすいし、皮も剥きやすかったので調理がしやすいなと思いました。味もほかのカボチャよりも甘いと感じました。カボチャ自体があまり得意ではないのですが、美味しく食べることができました。



写真 鶴首カボチャ

このほか、感想文には記されなかったが、遠隔授業では、このカボチャを自宅に持ち帰ると、母が「昔食べていた。懐かしい」と言って、一緒に調理した話も聞かれた。一つの在来野菜を通じて、親子間の伝承の場としても役立つことが認められた。

もとより、筆者の在来野菜研究は、高齢者社会となり介護の世界で利用できないか、という思いがあった。まさに、在来野菜は五感で楽しむことが可能で、幼いころの記憶を蘇らせる回想法としての効果がある。現在、進めている宮崎市大宮地区での宮崎市地域のお宝発掘・発展・発信事業では、この在来野菜を地域創生に活かそうと事業展開を進めており、この鶴首カボチャについては購入先の業者も数社内定しており、現段階では次年度以後、同地区内の農村部と生産体制をどのように整えるかの話を進めている。まさに、民俗事例が地域創生に活かされようとしているのである。

一例を示すと、農村部に一人、養蜂家がおられる。現在はミツバチのための花が少ないため、養蜂家自身の山にユリノキの木を植樹をされていると言われた。この地域は池内米といって、宮崎市でも美味で上質の米が収穫できる地域である。なのに、なぜ、レンゲソウの蜜が採れないかと尋ねたところ、次のような答えが返ってきた。「宮崎は台風前の収穫を目指して、早場米、超早場米が主流となった。このため春には田植えがなされており、以前のような花が咲かないのだ」と。確かに、宮崎ではお盆前に新米を出荷することを是としており、実際にこれが高価に販売できる。そのために、レンゲソウが植えられなくなったという影響がでているわけである。そこで、同事業で小学生の田植え・稲刈り用の水田を一枚借りているので、ここは通常米だから、春はレ

ソウルフードにしようということで、生産者との話はまとまった。

従来の民俗的な生活スタイルでは、複数の生業が一本の糸で結ばれた生態系を維持していることを前提に成り立っていた。ところが、現代農業では、生態系の糸があちこちで切れてしまう。それを在来野菜や通常米を栽培することで、一部でも復元しようと試みているわけである。若い学生たちが在来野菜に触れ、形の不揃いな野菜に対する誤った価値観に惑わされることなく、利用促進に役立ってもらうことを期待している。

今後は遠隔授業において、地域住民と大学、学生とのコネクションを構築する必要がある。Zoomなどのオンライン会議システムは、コロナ禍で、大学関係者には一気に普及した。しかし、官公庁、一般市民に至ってはまだその環境にはなく、情報社会としての格差がさらに広がる危険性も大きく存在している。生産者・地域住民・大学・学生をいかにオンラインでつなげるかが、緊急の課題であり、今後の地域創生の成否を分ける緊急の課題なのである。

III 東アジア十五夜行事研究の将来性

冒頭のアブストラクトに記したように、学生たちによる自然なかたちでの日中韓交流から生まれた十五夜オンライン・シンポジウムは、各国の研究者、在日外国人の方々を取り込み、より大きな組織へと発展を見た。各国から中秋節・秋夕に関する資料や写真がリアルタイムでlineやFacebookを通じて送付され、お二人の日本在住の中国・韓国の研究者(項青先生・金敬淑先生)の同時通訳と言えるほどのスピーディーな翻訳によって、短期間で大量の情報を寄せられた。また、準備段階でのゼミ活動では、毎回、韓国蔚山大学の学生2名(심정엽(沈 桎燁さん)、최은영(崔恩瑛 チェ ウンヨンさん))が参加し、そこに、韓国安東市 全慶北文化コンテンツ振興院長(元国立EBS制作局長) 김준한(金俊漢 キム・ジュンハン)氏に参加を依頼し、快諾を賜った。さらに、Facebook上で知り合った在日コリアンの이 신혜(李信恵 イ シネ)さんにも協力を賜った。中国広西壮族自治区の秦璞先生・潘艶賢先生にもご参

宮崎公立大学自主講座

十五夜

主催
宮崎公立大学民俗学研究室

日中韓オンライン・シンポジウム

2020年10月3日(土)
13時～17時30分

～ゲスト～ **ZOOM**

項 青(熊本県立大学講師
兼 中国語通訳)
秦 璞(広西大学外国語学院
助教授)
潘 艶 賢(広西民族大学
東南アジア学院 助理研究員)
김준한 金 俊漢
(元韓国EBS制作局長)
이 신혜 李 信恵
(フリーライター 在日朝鮮人2・5世)
김경숙 金 敬淑
(熊本大学講師 韓国語通訳)

～協力～

- ・심정엽 沈 桎燁
シム ジョンヨブ (蔚山大学校 卒業生)
- ・최은영 崔 恩瑛 チェ ウンヨン
(蔚山大学校 学生)

～宮崎公立大学民俗学ゼミ～

- ・古澤 果林
- ・櫻田 真由美
- ・橋口 美空
- ・佐藤 もも
- ・田中 里沙
- ・西 優里
- ・横山 未羽
- ・王 安琪(留学生)
- ・王 翔宇(留学生)

プログラム

13時～14時
第4回「地域のお宝発掘・発展・発信事業」を考える一歩を志す地域創生へ
新名一仁・杉尾優樹・服部律子・永松敦
ポスター発表 コロナ禍の疫神信仰
現代民俗学愛護生有志
14時～15時40分
研究発表公開助成事業
シンポジウム 東アジアの中秋節
項青・秦璞・潘艶賢・金敬淑・金俊漢・李信恵
司会 永松 敦(宮崎公立大学教授)
(10分休場)
15時50分～16時50分
東アジアの十五夜行事
宮崎公立大学民俗学ゼミ生・韓国 蔚山大学校学生
(10分休場)秋後 前九折・沖繩地方 各地の十五夜行事
17時00分～17時30分
参加申込みによる記録会
9月30日までに下記にメールでお申し込みください。折り返し、ZOOMのID・パスワードをメールにてお知らせします。
宮崎公立大学民俗学研究室 お問い合わせ
08(9)6406-5493
◎画像は実況/録画機能は表示できません

加を賜った。内容は以下の通りである。

1、 十五夜 日中韓オンライン・シンポジウム

(1) 開催の趣旨

十五夜シンポジウム 開催の趣旨

宮崎公立大学教授 永松 敦

このたび、東アジアの十五夜シンポジウムを開催することにいたしました。開催の理由は二つあります。

一つ目は、コロナの影響による教育的事情。二つ目は、旧暦8月15日の名月を拝む習慣をもつ最も身近な同朋との連帯意識をもつことです。

大学はコロナ禍により、今も遠隔授業が続いています。小学校から高校生までが普通に授業が再開されたにも関わらず、いまだに大学だけが全面的に対面授業ができない事態が続いています。また、海外渡航も制限がかかり、日本から海外に渡航を予定していた学生、逆に、諸外国から日本に来て勉強したい学生たちが、留学という貴重な機会が奪われてしまいました。

そこで、東アジア全体で共通の行事、しかも、旧暦の日程でしかできない行事について、オンラインによる共同研究会を開催することにいたしました。幸い、ゼミには中国の留学生が二人いましたので、中秋節についてはすぐに状況がわかりました。

韓国については、学生が蔚山大学校に短期派遣をしていた関係上、同大学の学生2名とZoomを通じて、ゼミを進めることができました。

通常の大学教育ではありえないことが、コロナの影響により、諸外国とネットでつながり授業を進めることができました。私は今回の現象を、コロナ効果と呼んでいます。

二つ目の理由は、南九州から沖縄地方にかけての十五夜芸能の調査を続けていて、同地方では先祖祭祀の要素が日本の中でも極めて強いことが認められること。中秋の名月に先祖祭祀をするのは韓国の秋夕（チュソク）と極めて近い関係にあることから、東アジア全体から中秋の行事を考えないといけない、と前々から考えていたからなのです。ただ、未解決なことは、なぜ、日本の十五夜はススキを供えるのか？ということです。沖縄地方には、ススキが魔除けであるからという伝承が強く残っています。韓国・中国・東南アジアではどうなのでしょう？本当に興味が尽きない問題です。

今回、私の関心事に、中国文化に関しては、項青先生が協力してくださり、韓国文化に関しては、30年来、お世話になっている金俊漢先生にお願いしました。さらに、輪が広がり、韓国文化に関しては、熊本在住の金敬淑先生が参加してくださり、中国についても、広西チワン族自治区の大学、広西大学の秦璞先生、広西民族大学の潘艶賢先生という専門家の協力を得ることができ

ました。さらには、日本のなかの韓国文化ということで、在日朝鮮人の李信恵先生にもご参加を賜りました。蔚山大学の学生さんである沈 柁 燁さん、崔 恩 瑛さんは毎週、Zoomを通して、色々な情報を提供してくださいました。私のゼミ生9名もよく連絡をとり、学生間の調整を図り、この研究会を盛り上げてくれました。心から感謝申し上げたいと思います。

最後に、一つ残念なことがありました。それは、熊本県人吉市が豪雨による大災害を受けたことです。当初、本研究会に参加を予定されていた韓国出身の人吉旅館の女将 堀尾里美さんは私と同じ民俗学の研究者仲間だったのです。今復旧に全力を注がれていますので、またの機会にご参加をお願いしたいと思っています。

この日中韓オンラインシンポジウム、今回だけで終わりにするには、あまりにも惜しい。できれば、毎年恒例にして、東アジア全体の心意的連帯感を深めていきたいと願ってやみません。

八月十五中秋夜 研讨会开幕致辞

宫崎公立大学教授 永松 敦先生

本次召开亚洲各国八月十五中秋夜研讨会的理由如下：一是因为今年的新冠、影响了教育界的正常运作。二是

想利用亚洲人有农历8月15日中秋佳节赏明月的风俗习惯，加强同行之间的合作关系。

目前日本的中小学都已经恢复了正常的教学方式。而大学却迟迟未能进入实体课状态，依旧是上网课。加上各国都在严格控制海外客源的自由入境，使很多留学生至今都无法入境，开始校园的生活学生。

为此，我校希望能够通过这次亚洲地区共同的风俗文化，用网络将不同地区的人们连接到一起，共同举行中秋活动的研讨会。正好我的教研室有两位来自中国的留学生，这次活动也可以让他们和大家一起度过中秋节。

韩国方面，也有两名曾经从蔚山大学校派遣的短期留学生通过zoom远程参加。

平时根本不可能进行的大学教育方式，这次托新冠之福，先进的网络技术将外国各大学连接起来了……我想把这种新的教学模式称之为：新冠效应。

还有一个理由就是：我曾经针对日本南九州～冲绳地方的八月十五中秋节的艺术技能做过学术调研。在调查中发现这些地区都有在中秋节举行祀祖的祭祀活动。因为这种现象与韩国的秋夕（チュソク）极为相似，我想这或许是整个东亚地区的现象。为此很多年以前就想若能仔细考查，一定会有更多的惊喜。

比如至今还没能找到答案的问题，为什么日本人过中秋节都会在家中供奉上芒草？在冲绳地区，传说芒草有避邪的作用。不知中国·韩国和东南亚各国是否也有这种说法？总之还有许多类似的，令人关注的民俗问题。

正因有如此多的疑惑，所以这次我想通过项青女士来介绍一下中国的中秋节文化。韩国方面将邀

请我三十多年来深交的金俊漢先生、还有旅日朝鲜人李信惠先生和住在熊本县的金敬淑女士。另外还从中国广西壮族自治区的的大学里邀请到了广西大学泰语专业的秦璞女士和广西民族大学越南研究员潘艳贤女士。还有上半学期每周四通过远程教育 zoom，为我们提供各种信息的蔚山大学校沈 枉 燁同学和崔 恩 瑛同学。最尽力的就是我教研室的 9 名学生，为了这个研讨会费尽了宝贵的时间和精力。在此向他们致以衷心的感谢。

最后我真诚地希望这样的日中韓远程教育研讨会，不能仅限于此次。如果今后每年中秋节都可以召开，就将会更圆满了。

十五夜심포지엄개최의 취지

미야자키공립대학교 교수 永松 敦

이번에 이렇게 동아시아十五夜심포지엄을 개최하게 되었습니다.

이번 심포지엄의 개최는 두가지의 이유가 있습니다

먼저 그 하나는 코로나의 영향에 따른 교육적인 사정, 두번째는 음력 8 월 15 일의 「달을 보며 기원을 드리는 풍습」을 공유하는 가까운 벗들과의 연대의식을 가지는 것입니다.

지금현재 대학은 코로나의 영향으로 원격수업이 이어지고 있습니다. 소학교에서 고등학교까지의 학생들은 예전의 대면형식의 수업으로 다시 돌아갔지만 대학교는현재까지 전면적인 대면수업을 할수없는 상황이 계속되고 있습니다.

또 해외와의 왕래도 여러 제약을 받고 있어 일본에서 해외로 갈 예정이었던 학생, 반대로 외국에서 일본으로 와서 공부할 계획을 했던 많은 학생들이 유학이라는 기회를 잃어버렸습니다

이런상황 속에서 동아시아의 나라들의 공통적인 명절, 그리고 음력으로밖에 설 수 없는 명절에 대해 온라인으로 공동연구회를 개최하기에 이르렀습니다. 다행히 저의 연구실에는 중국에서 온 두명의 유학생이 있어서 중국의 중추절에 대해서는 쉽게 알 수 있었습니다.

한국의 추석에 대해서는 저희학생들을 울산대학교로 단기파견을 하고 있는 관계로 울산대학교 학생 2 명과 zoom 을 통해 세미나를 진행할 수 있었습니다.

평상시의 대학교육에서는 불가능한 일이 이번 코로나사태에서는 가능해져 여러외국과 인터넷을 통해 연결되고 수업을 진행할 수 있게 되었습니다. 저는 이번의 이런 현상을 코로나 효과라고 부르고 있습니다.

두번째 이유는 저는 현재 남규슈에서 오키나와지방에걸친 十五夜날의 세시풍속에 대한 조사를 하고 있습니다. 그 조사를 통해 이지방의 풍속이 일본 그 어느곳보다 선조제사의 요소가 짙다는 점과 이것은 중추의 명월에 조상을 기리는 제사를 지내는 한국의 추석과 아주 비슷하다는 점을 알게 되었고 그걸 통해 동아시아 전체에서의 중추절이라는 명절을 고찰해볼 필요성을 새삼 절감하게 되었습니다.

다만 풀리지 않은 점도 있습니다. 왜 일본의 十五夜에는 억새풀을 올리는 걸까?입니다.

오키나와지방에서는 억새풀이 악귀를 물리치는 것으로 알려져있습니다. 한국, 중국, 동남아시아

에서는 어떻게? 정말 흥미진진한 문제입니다.

이번에 이렇게 저의 개인관심사에, 중국문화에 관해서는 項靑선생님께서 협력해주셨고 한국문화에 관해서는 30년간 저와의 교류를 통해 많은 도움을 주신 김준환선생님께서 또 수고를 해 주셨습니다. 또 이번 심포지엄에서는 더욱더 많은 분들이 도움을 주셔서, 한국문화에 관해서는 구마모토에 사시는 김경숙선생님이 또 중국에 대해서는 광시치완족자치구 광시대학의 秦璞선생님과 광시민족대학의 潘艷賢선생님께서 도움을 주셨고 또 일본 속의 한국문화의 소개를 위해 재일한국인이신 이신혜선생님께서도 참가를 해 주셨습니다.

또 울산대학교 학생인 심 정엽씨와 최 은영씨는 매주 zoom을 통해 여러정보를 알려주었습니다. 그리고 제 연구실의 학생들도 자율적인 역할분담 일정조정등을 통해 원활한 심포지엄개최를 이끌어냈습니다. 모든 분께 감사말씀 드립니다.

마지막으로 안타까운 소식을 전합니다. 본심포지엄에 참가예정이었던 히토요시여관의 한국인 오카미이신 堀尾里美씨가 이번 7월의 구마모토 히토요시시의 호우로 인한 큰 피해와 피해 복구때문에 이 심포지엄에 참석을 못하시게 되었습니다. 堀尾里美씨는 저의 민속학 연구 동료이기도 합니다. 아무쪼록 피해복구를 잘 하시고 다음기회에 꼭 참석하실 수 있으시길 바랍니다.

이번 이 한중일의 온라인심포지엄이 이번한번만으로 끝나면 너무나도 아까운 마음이 들며 가능하다면 매년 열리는 연중행사로 자리잡아 동아시아 전체의 마음이 하나로 연결되어 연대의 정을 더욱 돈독히 다져 가는 장이 되었으면 하는 바램입니다

(2) 韓国安東市君子村の秋夕(チュソク)

金俊漢先生(全慶北文化コンテンツ振興院長・元国立EBS制作局長)

君子村の元となる烏川遺跡(オチョンユジョク)は、光山金氏礼安派の初代金孝盧が村を開いて以来600年にわたり子孫たちが暮らしてきたところである。現在の君子村(クンジャ・マウル)は1974年の安東ダムの建設工事のため礼安面烏川洞から臥龍面烏川里へと移されました。

ユネスコ世界文化遺産に登録されている河回村(ハフェ・マウル)の近くにあり、同じく文化遺産指定の陶山書院(トサンソウォン)から車で約20分のところに、現在の君子村があります。

秋夕は男性は韓服、女性はチマチョゴリといった民族衣装で先祖を礼拝します。現在の韓国では民族衣装を着用する人が少なくなりましたが、ここ君子村や河回村ではその伝統が守られています。

先祖に林檎や梨をお供えます。先祖に供える果物は必ず、上部を切って供える習慣があります。人間の食用としては上部を切ってわたすことはしません。これが韓国の風習の特色でもあります。

韓国安東市君子村の中秋夜

元韓国 EBS 制作局長

金俊漢

旧君子村は原烏川遺址。由光山金氏礼安派の第一代金孝盧开辟の、至今已有 600 年の歴史。其子孫后代一直生活于此。現在の君子村は 1974 年、因为修建安東水庫、将其从礼安面烏川洞迁移至臥龍面烏川里了。附近还有登录了世界文化遗产的河回村遺址和国家指定的文化遗产陶山書院。自驾車开车大约 20 分钟、就可到现在的君子村。

中秋夜男子身着韓服、女子穿著鮮艷的民族服裝祀拜祖先。虽然如今的韓国、衣著民族服裝的人越來越少了、但是在君子村和河回村依旧保持著民族特色。

祀祖時案台上需要貢奉蘋果和梨子。并将水果的上方切割开、以方便祖靈食用。一般人吃的水果、不需要將水果上部切开。这應該說是韓国的風俗特色之

한국 안동시군자마을의 추석

元한국 EBS 제작국장 김 준환

군자마을은 원래 오천유적지로 불려진 곳으로 광산김씨 예안파 입향조인 김효로가 마을을 열어 정착을 시작한 후 600 년에 걸쳐 그 후손들이 살아온 곳입니다. 현재의 군자마을은 1974 년안동댐 건설에 따른 수몰예정지역의 예안면오천동에서 와룡면 오천리로 옮겨와서 조성된 곳입니다

유네스코세계 문화유산으로 등록된 하회마을과도 가깝고, 역시 세계문화유산 지정유적인 도산서원까지는 차로 20 분정도 떨어진 곳에 있습니다.

추석에는 남자들은 두루마기, 여자들은 치마저고리등의 한복을 입고 조상님들에게 제사를 올립니다. 요즘 한국에서는 한복을 입는 사람들이 많이 줄었지만 이곳 군자마을, 하회마을에서는 한복을 입는 전통이 남아있습니다.

조상님의 차례상에는 사과나 배같은 제철과일을 올립니다. 제사상에 올리는 과일은 반드시 제일 윗부분의 껍질만 깎아서 올려야 합니다. 제사상이외 그냥 먹을때는 그렇게는 하지 않습니다. 이것은 한국에서만만의 독특한 풍습이기도 합니다

(3) 中国の中秋節 熊本県立大学非常勤講師 項 青

“中秋節”, 中国では又は“團圓節”とも呼びます。最初は『周礼』に記録を見え、漢代からほぼ出来上がっていました。唐代の初期には中秋節は宮中の正式な行事と定められたそうです。その以降宋代が民間に流行し始め、明清時代になると、お正月と同じくらい大切なものとなり、中国の一年中最も大切な節句になっていました。中国人にとっては、単に一枚の月餅を食べられるだけではなく、地球に異なる場所に住んでいても、同じ月を眺めながら、月餅を作って食べる

ことは、心の中で家族とともに団らんしている象徴的な意味合いを持っています。唐代杜甫の「頭を挙げて明月を望み、頭を低くして故郷を思う」の詩句は、海外の中国人がよく読まれる一句です。月餅の由来は胡桃とともにシルクロードを経由に、唐代に西域からもたらしたそうです。現在は蓮の実、あんこ、なつめ、胡桃、ココナツ等の堅果類をよく使われています。

中秋節の行事は、地域によって異なるのですが、兎の形の提灯を手作りして、中にロウソクを入れて、徹夜で遊べることは子どもたちに一番人気です。その日家の中に季節な果物（梨、ザボン等）里芋や色んな種類の月餅を飾ります。宋の孟元老の『東京夢華録』には「中秋之夜、貴家結飾台榭、民間爭占酒樓玩月。（中略）深夜逢聞笙芋之声、宛如云外。間里兒童、連宵婚戲。夜市駢闐，至于通曉」と記しています。

(4) タイの中秋節

秦 璞 広西大学外国語学院 助教授

中秋節はタイでは「祈月節」と呼んでいます。

移民した中国人がもたらしたものです。タイの中国人は広東省出身が多く、各節句に行われる風習も広東省現在のものとほぼ同じです。

祈月節の当日、先祖や神様（仏教も含む）等を祈願し、住宅の玄関にサトウキビでアーチ型飾りをします。供え者はお茶、花、果物と月餅等を献げ、神明の到来を迎えとします。

近年観光目的でタイ政府からも次第に重視され、チャイナタウン中心に行われるようになりました。

中秋节在泰国被称为“祈月节”，是由移民泰国的华人从中国带过去的民俗，由于泰国华人当中以潮汕籍居多，所以节日里的活动与中国潮州、汕头一带的相似。祈月节当天，泰国华人要祭祖、拜神、拜佛，到了晚上，要在住宅门口用甘蔗搭成拱门，在方形供桌上摆好清茶、鲜花、水果、月饼等贡品，以迎接“神明驾到”。在泰国，一般只有华人才过“祈月节”，所以节日庆典多在唐人街举行。但近年来，由于中泰交流程度加深，泰国官方也开始注意到这个节日。

1. 태국 秦璞선생님의 원고

「추석, 중추절 中秋節」은 태국에서 「기월절 祈月節」이라고 부릅니다

중국에서 건너온 화교들에 의해서 태국에 들어온 풍습입니다. 태국의 화교들은

중국 광둥성출신이 많은 이유로 각명절의 세시풍습도 광둥성의 (현재의) 풍습과 거의 같습니다.

기월절 당일날에는 조상님과 신 (불교도 포함) 에게 소원을 빌고 현관에 사탕수수로 만든 아치형 장식을 합니다. 또 제사상에는 차, 꽃, 과일과 월병등을 차려서 천지신명님을 맞이합니다

요즘에는 태국정부도 관광목적으로서의 그 의미에 주목하여 차이나타운을 중심으로 여러 행사를 하고 있습니다.

(5) 베트남의中秋節

潘 艷 賢 廣西民族大学東南アジア学院 助理研 研究員

베트남人は農歷の八月十五夜をします。ベトナムの中秋節は中国と同じく家族団らんの意味を持ち、同時に子どもの日でもあります。民間の伝承によると、中秋節の前はちょうど農家が収穫等で忙しい時期のため、親たちは我が子のお世話ができません。そのことから八月十五夜は収穫を終えた後、収穫祭とともに、子どもたちを喜ばせるように様々な行事を行うようになりました。この日子どもたちは朝から、提灯をもって、歌いながら遊行し、灯火の遊戯をします。一番人気なのは鯉の形の提灯です。将来の平安と幸福を祈り意味と子どもたちが成人後「鯉龍門を登るように健やかに成長する意味も込めています。

ベトナムの中秋節の風習は、中国の広東省と広西省のものと似通っていて、獅子舞、月見と月饼を食べる等があります。その他に、ベトナム特有の伝統食べ物「猪仔餅(子どものお菓子で、豚の形をする)も作って食べます。

二、越南人于农历八月十五过中秋节。在越南，中秋节除了具有家庭团圆的意义，同时也是儿童节。根据越南民间说法，中秋节前正是越南农忙之时，父母无法照顾孩子，到农历八月中旬正是农忙结束之时，越南人此时进行庆祝，一方面是庆祝丰收，另一方面是将此视为对孩子表达亲情关怀的日子，补偿之前的缺失时光。久而久之，中秋节就演变为越南的儿童节。中秋节孩子们会点着灯笼，边走边唱，进行烛光游园。儿童最喜欢提的是鲤鱼灯笼，一是未来祈福平安，二预示孩子们长大后“跳龙门”之意。越南中秋节的许多民俗与中国两广相似，如舞狮、赏月、吃月饼等。此外还有一种越南中秋特色食物叫猪仔饼。

2. 베트남 潘艷賢선생님 원고

베트남의 추석(중추절)은 가족들이 모여서 즐긴다는 것에 의미가 있겠습니다

그와 함께 아이들의 명절이라고도 할 수 있습니다. 아이들은 중추절 아침부터

제등에 불을 밝혀 들고 노래를 부르며 거리를 누비고 등불놀이(燈火의遊戯)를 합니다

베트남의 중추절은 광둥성과 광시좡족 자치구의 풍습과 거의 동일해서, 사자춤 추고 월병을 먹습니다

(6) 在日コリアンの秋夕

李信恵 在日朝鮮人2・5世

秋夕の朝には茶礼という、祖先の霊を迎える儀式をします。(漢字だと茶書きますがお酒を注ぎます) 在日の場合は、現在でもきちんと行う家庭もありますが、韓国と同様に簡素化されていたり、特に何も行わなかったりもします。

秋夕に欠かせないのがソンピョン(松餅)です。あんを包んで半月の形にし、松の葉を敷いて蒸したお餅のこと。「ソンピョンをきれいに作れると、お嫁に行ってかわいい娘を産める」という言い伝えもありますが、現代ではちょっと引っかけますね。家庭で作らなくても、大阪では鶴橋にあるコリアタウンへ行けば売っています。더도 말고 덜도 말고 한가위만 같아라 (余るでも掛けるでもなく満月=旧盆のようであれ)、秋夕でのあいさつの言葉です。

中秋一大早，韓國有奉茶迎祖靈的茶禮（雖然寫着茶，實為敬酒）。在日本定居的二世、三世，目前仍有保留這個習慣的家庭。當然更多的是與現在的韓國一樣，簡化成什麼也不准備了。

韓國的中秋節必吃的有松餅。是一種帶豆沙餡的半月形的糕點，蒸煮時餅下鋪填着松葉，故得此名。舊時曾有這樣的諺語：能做好松餅的女子，嫁得好人家。也可以生育可愛的姑娘。這樣的話現在可行不通了。而且自己家中已不再做松餅，大多去店鋪購買。在大阪的鶴橋高麗城中都有出售的。

추석날 아침에는 차례라는 조상님을 기리는 의식을 올립니다.(한자로는 차(茶)를 올리는례라고 쓰지만 차례상에는 술을 올립니다) 제일한국인의 경우, 아직도 격식을 차려서 차례를 올리는 집도 있긴 하지만 현재의 한국처럼 간소하게 올리거나 아무것도 하지 않는 집도 있습니다.

추석이라면 빠질수없는 것이 송편(松餅)입니다. 여러가지 소를 넣어 반달모양으로 빚어서 술잎을 깔고 찌서 만든 떡입니다.「송편을 예쁘게 빚으면 시집가서 예쁜 딸을 낳는다」는 이야기가 있지만 요즘에는 조금 맞지 않는 말인것 같습니다. 송편은 가정에서 만들지 않아도 오사카에서는 쓰루하시라는 코리아타운에 가면 살 수 있습니다. 더도 말고 덜도 말고 한가위만 같아라는 추석의 인사말입니다.

(7) 御礼 永松 敦

御 礼

十五夜 日中韓オンライン・シンポジウム

昨日は長時間にわたり、中国・韓国、そして、在日コリアンの方々とを結んで、貴重なお話を

賜り、誠にありがとうございました。お陰様で、facebook 等でも好意的な投稿が多く、かなりの反響がありました。これまでのご資料収集などのご準備といった多大なご苦労をおかけしました。本当にお疲れさまでした。

日中韓は政治的・経済的に摩擦が生じやすいのですが、文化的には極めて親密な関係を築いて参りました。これからも東アジアの平和と安定のために、われわれの「文化力」で、少しでも貢献できるように精進して活動を継続したいと考えております。

特に、今回は大阪のコリアタウンからの情報発信もあり、国内における多文化共生についても、少しは寄与できるのではないかと、という可能性を示すことができました。

また、コロナ禍により、zoom を使った遠隔授業が主流となりましたが、「災い転じて福となす」で、韓国蔚山大学の学生と本学学生との交流が生まれ、共同発表するという機会にも恵まれました。

本会の趣旨に賛同をいただき、ご協力をしてくださったすべての方々には心より深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

多くの聴衆の皆様方にも恵まれました。この十五夜シンポジウム、可能なら毎年、継続発展ができればと考えております。

同じ旧暦（太陰太陽暦）8月15日の空を見上げながら、人々が望月のように丸く、穏やかに生活できることを願いつつ・・・

末筆ながら、本計画の当初から熊本在住の項青先生、金敬淑先生、さらに、本学学生と友人で会った韓国蔚山大学の정엽 沈 枉輝シム ジョンヨプ・최은영 崔 恩瑛 チェ ウンヨンさんと zoom でつないで準備を行い、開催当日は、中国 広西大学外国語学院の秦璞先生、広西民族大学東南アジア学院の潘艶賢先生、韓国安東市の元 EBS 制作局長の김 준한 金俊漢先生にご参加をいただきました。

地元、宮崎市で地域活動をされる服部律子（はっとりりつこ）さん、戦国期研究家の新名一仁（にいなかずひと）さん、ゼミ生の杉尾優樹（すぎおゆうき）さんにもご尽力を賜りました。最後になりましたが、準備から発表まで、よく全員まとまって頑張ってくださった中国人2名の留学生を含む宮崎公立大学民俗学ゼミ9名のみなさんに、厚く感謝の意を表します。

致谢函

日中韓网络学术探讨会・八月十五中秋节

昨天承蒙中国、韩国的各位老师，以及居住在日本的朝鲜人士，不惜奉献出正值放假期间和周末的宝贵时间，为本次活动尽心尽力。十分感谢！

研讨会结束后，我们收到了通过 facebook 等形式发送来的众多信件。投稿者多持善意，反响非常不错。各位精心准备的各种资料，使你们劳心又劳力了。大家辛苦啦！

虽说近年来，日中韓之间多有政治，或经济上的各种摩擦。但文化领域的交流并未中止，反而在相关人士的努力和支持下，建立起了良好的关系。我想为了今后亚洲的和平和稳定，用我们的文化

交流の底蘊，哪怕仅仅是微薄之力，也一定可以起到某种程度的推动作用。真心地期盼着今后能成为交流合作伙伴关系。

本次活动，十分庆幸的是得到了大阪市朝鲜街的大力支持。他们提供的信息和资料，令我感到既是在日本国内，也同样可以有多种不同文化共生共存的发展空间。

今年由于新冠的疫情，各国都开始利用 zoom 的会议软件来上网课。没想到这竟会收到了“塞翁失马、焉知非福”的意外效果。本校的学生因此而得到了与韩国蔚山大学校的学生们通过网络平台进行学术交流，共同发表意见的良机。

借此机会谨向大力支持本次活动，积极出谋划策的各位人士，表示由衷的感谢。

我十分庆幸这次活动赢得了众多的听众朋友。希望每年的八月十五中秋节，都能举办一场精彩的研讨会。让我们大家在不同的地方，举头望明月，千里共婵娟。祈祷我们的明天会更好……

最后，谨向参与本次活动的中国广西大学外语学院的秦璞老师、广西民族大学东南亚学院的潘艳贤老师，韩国安市市元 EBS 电视制作局长金俊漠先生，以及居住在熊本的项青老师、金敬淑老师，本校的学生们，以及韩国蔚山大学校的沈 枉燁・崔 恩瑛，还有当天为大家连接 zoom 的工作人员。另外本宫崎市地域活动家服部律子女士、日本战国时期的研究学者新名一仁先生，本研究室的学生杉尾優樹君等各位，也给予了我们大力的支持。以及自始至终都坚守岗位的宫崎公立大学的民俗学研究室的 9 名大学生和 2 名中国留学生，表示诚挚的谢意。

인사 말씀

한중일 온라인 심포지엄 十五夜

어제는 한국, 중국, 일본 그리고 재일한국인들의 많은 분들이 오랜 시간 함께 하시며 추석 十五夜에 대해 많은 귀중하고 유익한 이야기, 의견등을 말씀해 주셔서 감사드립니다. 심포지엄이 끝나후, facebook 등의 SNS 매체에서 많은 분들이 호의적인 투고를 하시는 등 반응이 좋았습니다. 심포지엄의 개최를 위해 많은 자료를 수집하고 준비해 주신 여러분들의 수고의 결과물이라 생각합니다. 다시 한번 감사말씀 드립니다.

한중일 3 국은 정치적, 경제적인 면에서 여러 마찰과 갈등이 생기기 쉬운 관계입니다만, 문화적으로 보면 지금까지 매우 친밀한 관계를 구축해 왔습니다. 앞으로도 우리 3 국의 「문화의 힘」으로 동아시아의 평화와 안정을 이루는 데에 조금이라도 도움이 될 수 있도록 더욱 더 활발한 연구와 활동을 해 나가야겠습니다

특히 이번 심포지엄에서 주목할 점은 재일한국인이신 이신혜 (李信惠) 선생님의 일본오사카에 사시는 재일한국인들의 추석에 대한 발표도 있었다는 것입니다. 이는 일본국내에 있어서의 다문화공생사회에 조금이나마 기여 내지는 그 가능성을 보여 주지 않았는가 하는 생각합니다.

또 이번 코로나사태로 인해 zoom 등을 통한 원격수업이 주로 이루어지고 있습니다만, 「전화위복」이라는 말처럼 한국의 울산대학의 학생들과 저희미야자키공립대학교의 학

생들과의 새로운 교류도 이루어지고 또 이번 심포지엄과 같이 멀리 떨어진 곳에서도 동시 공동 발표를 할 수 있는 기회가 생기는 등의 교류의 새로운 형태를 발견하는 계기가 되었습니다

이번 심포지엄의 취지에 동의해주시고 협력해 주신 모든 분들께 진심으로 감사말씀 드립니다.

그리고 이번 심포지엄은 많은 청중들께서 시청해 주셨습니다. 그런 의미에서 이 十五夜심포지엄이 일회성의 행사가 아니라 가능하면 매년 개최되어 발전해 나가길 바라는 마음입니다.

같은 음력 (태양태음력) 8월 15일의 밤하늘을 바라보며 모든이들이 둥근 보름달처럼 평온하고 풍요롭게 살아가길 바라며.....

마지막으로 이번 심포지엄에서 구마모토의 項靑선생님, 김 경숙선생님, 또 저희학교 학생의 친구인 인연으로 zoom 을 통해 준비와 참석을 해 주신 한국 울산대학교의 심 정엽씨, 최 은영씨, 심포지엄 당일에는 중국 廣西대학교 외국어 학원의 秦璞선생님, 廣西민족대학 동남아시아학원의 潘艷賢선생님, 한국 안동시의 전 EBS 제작국장이신 김준환선생님께서 참석을 하셔서 발표를 해 주셨습니다.

여기 미야자키에서 지역활동을 하시는 핫토리 리쓰코 (服部律子) 씨, 전국시대연구가 니나 가즈히토 (新名一仁) 씨, 연구생인 스키오 유키 (杉尾優樹) 씨에게도 많은 도움을 받았습니다. 또, 준비에서 발표까지 함께 힘을 모아 수고를 해 준 2명의 중국유학생을 포함한 미야자키공립대학 민속학연구실의 9명의 학생 여러분에게도 감사말씀 드립니다

參加者

- | | | |
|-------|---------------|----------------------------------|
| 項 青 | | 熊本県立大学講師 兼 中国語通訳 |
| 秦 璞 | | 廣西大学外国語学院 助教授 |
| 潘 艷 賢 | | 廣西民族大学東南アジア学院 助理研研究員 |
| 김 준한 | 金 俊漢 김ム ジュンハン | 全慶北文化コンテンツ振興院長
(元韓国 EBS 制作局長) |
| 이 신혜 | 李 信惠 イ シネ | 在日朝鮮人 2・5世 フリーライター |
| 김 경숙 | 金 敬淑 김ム キョンシク | 熊本大学講師 韓国語通訳 |
| 심정엽 | 沈 枉燁 シム ジョンヨブ | 蔚山大学校 卒業生 |
| 최은영 | 崔 恩瑛 チェ ウンヨン | 蔚山大学校 学生 |

～宮崎公立大学民俗学ゼミ～

古澤 果林・櫻田 真由美・橋口 美空・佐藤 もも・田中 里沙・西 優里・横山 未羽・王安琪 (留學生)・王翔宇 (留學生)

永松 敦 宮崎公立大学教授 世話役

IV おわりに

これまで、遠隔授業における野菜を使った実践例と、学生たちが自ら動いて海外の友人とつながったことから広がった「十五夜 日中韓オンライン・シンポジウム」を中心に、その効果と問題点について述べてきた。

結論から言えば、対面授業よりも遠隔授業の方が教育効果に問題がある、ということは一概には言えない。むしろ、地域を越え、国境を飛び越え様々な民族・文化との遭遇を可能にしたと言っ
てよい。もちろん、個別指導の割合がどうしても少なくなるので、全員が目的に対して同じペースでアプローチできているかの問題はあるかも知れない。この点は今後の検証の仕方が問われることになるだろう。

コロナ禍によって、何が生み出されたのかを問うときに、今回は海外の研究者たちとオンラインでつながり、いつでも意見交換やシンポジウム、学会などが開催できることに気が付いた。海外の現地調査についても、事前に現地との連絡、情報収集には極めて有効な手段であることが認識できた。ただ、前述したように、各大学の研究者、学生にとってはいまやオンラインの会話は通常の習慣となったが、多くの地域住民が置き去りにされてしまう危険性が伴う。この点、各大学などネット環境の整えられた施設においては、地域住民をあつめ、オンラインの様子を大講読室で見学できる会場の提供を積極的に進めるべきであろう。

今回、試験的に実施した十五夜オンライン・シンポジウムは参加された関係者の方々からも継続を望む声が多い。毎年、旧暦 8 月 15 日前後には、中秋節・秋夕・十五夜の研究会を恒例にして、世界と平和的に活動を続ける研究会を継続したいと考えている。

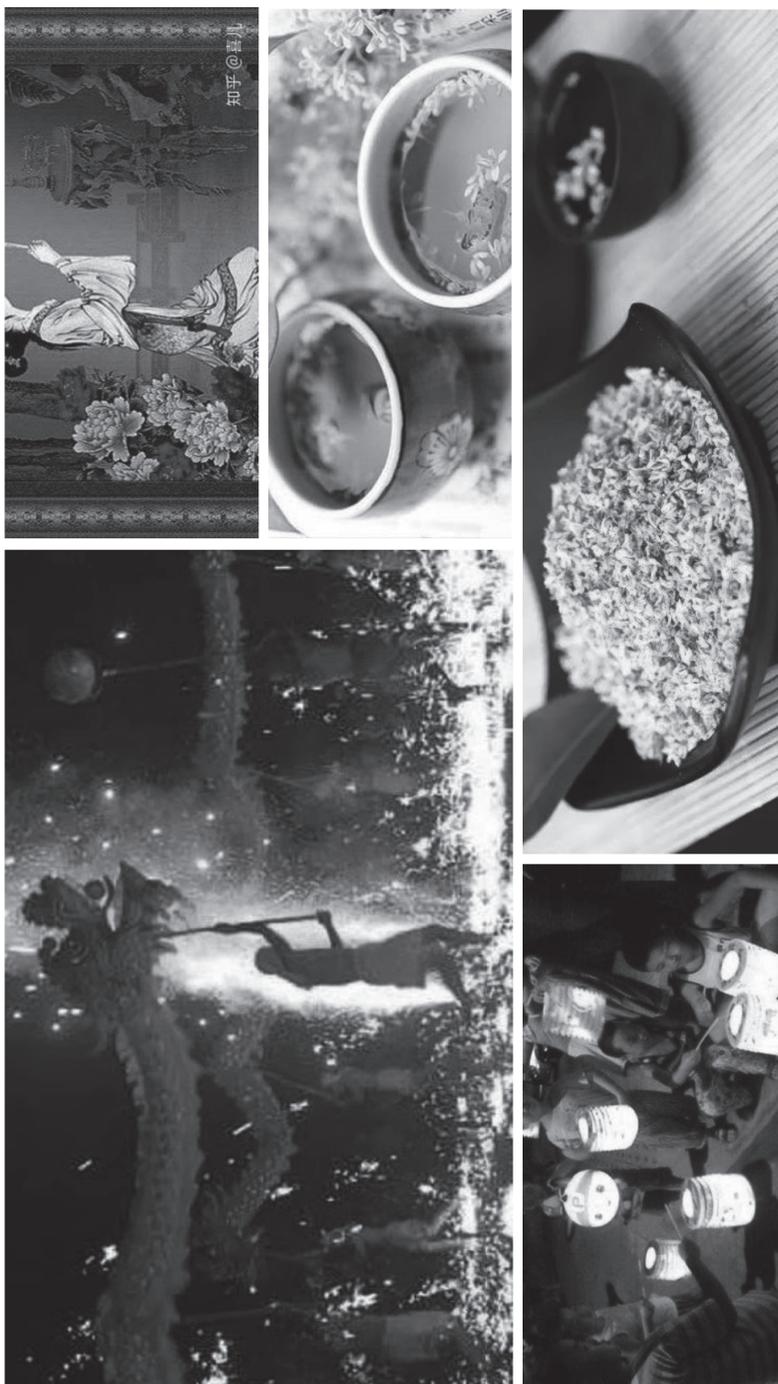
【付記】 本シンポジウムにご賛同していただいた項青先生、金敬淑先生、李信恵先生。(韓国) 召
준환先生、(中国) 秦璞先生、潘艶賢先生には貴重なご研究の成果を發表していただき、誠にあり
がとうございました。さらには、韓国蔚山大学校の심정엽さん、최은영さん、本学の民俗学研究
室の学生達と、よく協力しあって、この大きな仕事を成し遂げていただき、厚く御礼申し上げます。
民俗学ゼミ生と蔚山大学校の学生さんとの親しい関係から始まった小さな研究会が、アジア全体
に広がる大きな研究会へと発展をするきっかけを作ってくださいました。学生の皆様方に心より
厚く御礼申し上げます。さらには、さらにアジア的な研究会に発展するよう、ご助言をいただい
た韓国、全南大学校教授・国際日本文化研究センター外国人研究員の金容儀先生からも激励のお
言葉を賜りました。今後、継続してさらに発展する研究会にしたいと努力を惜しまない所存です。
ここに感謝に意を表します。

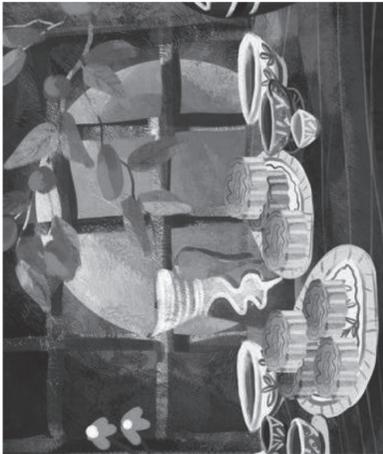
写真資料

1. 中国の中秋節 項青資料
2. タイの中秋節 秦璞資料
3. ベトナムの中秋節 潘艶賢資料
4. 韓国安東市君子村 金俊漢資料
5. 韓国 심정엽 沈怔燁資料
6. 在日コリアン 李信恵資料
7. 本学民俗学ゼミ生資料

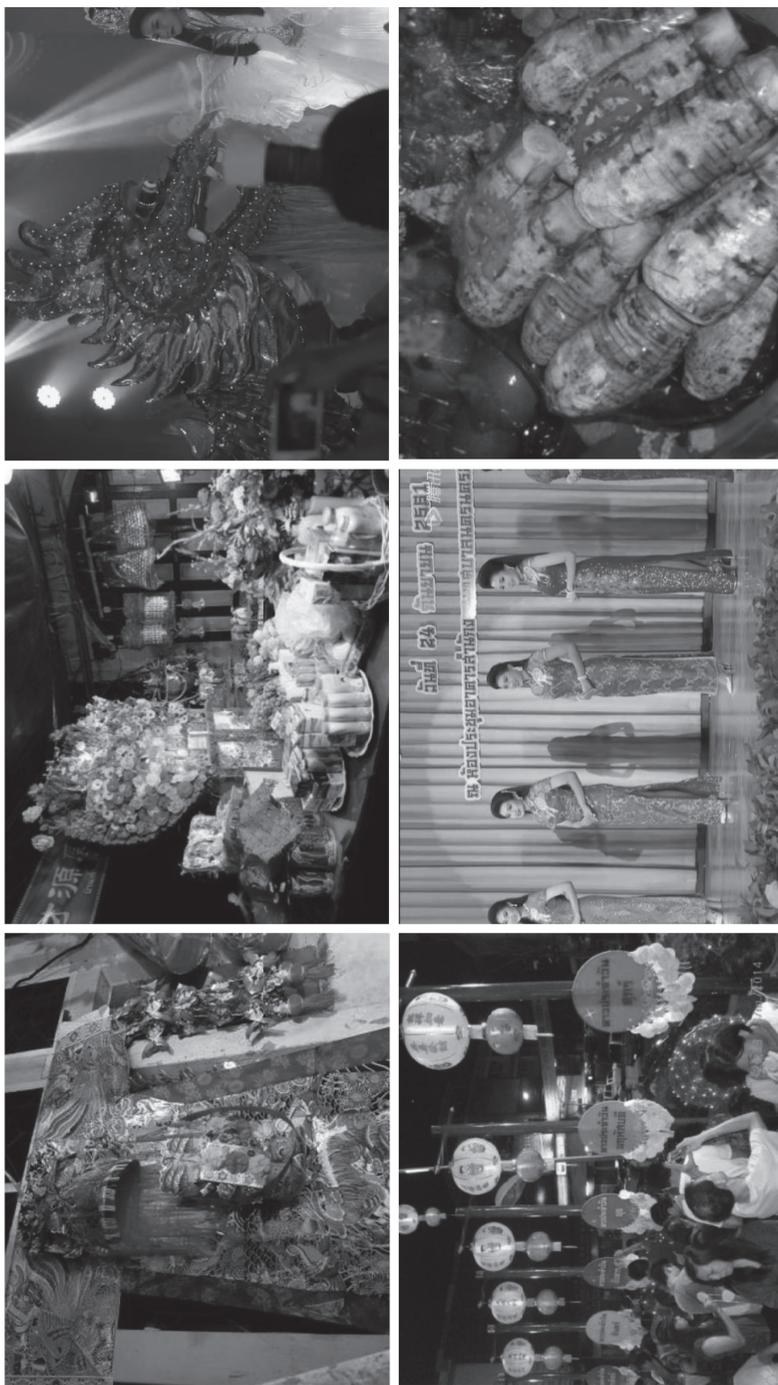
1. 中国の中秋節 項青資料



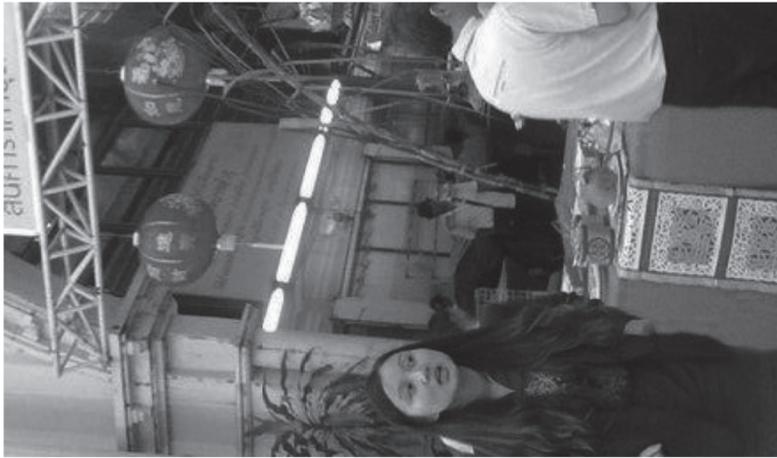




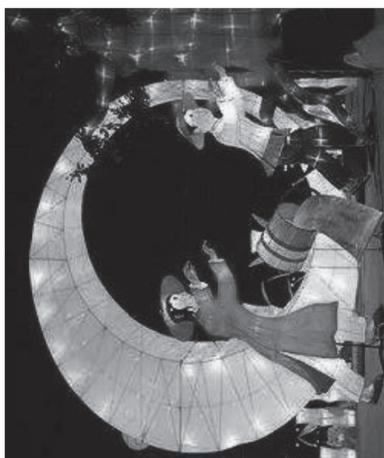
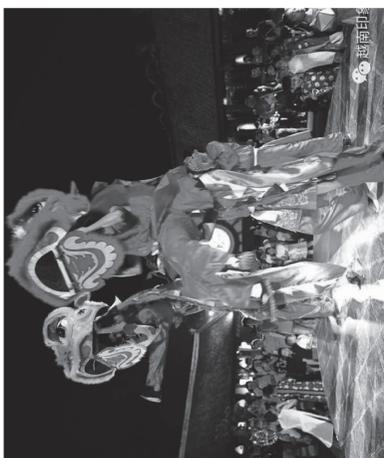
2. タイの中秋節 秦璞資料

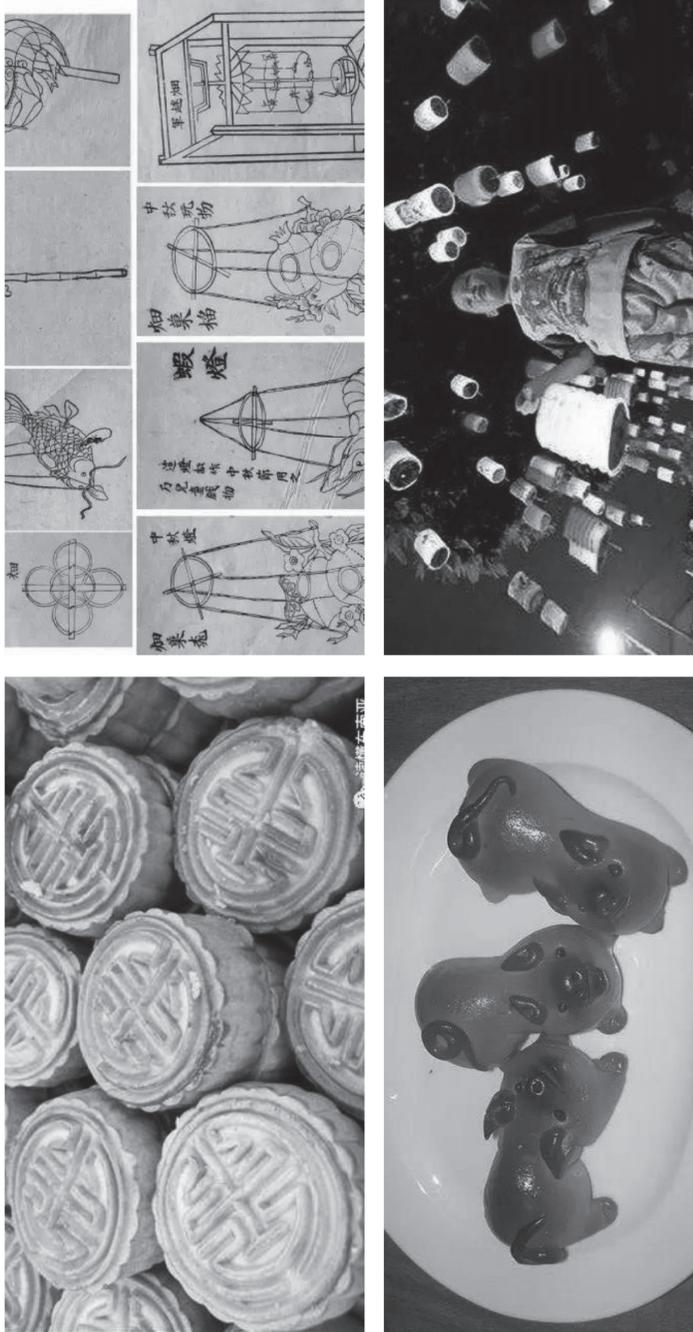






3. ベトナムの中秋節 潘艶賢資料





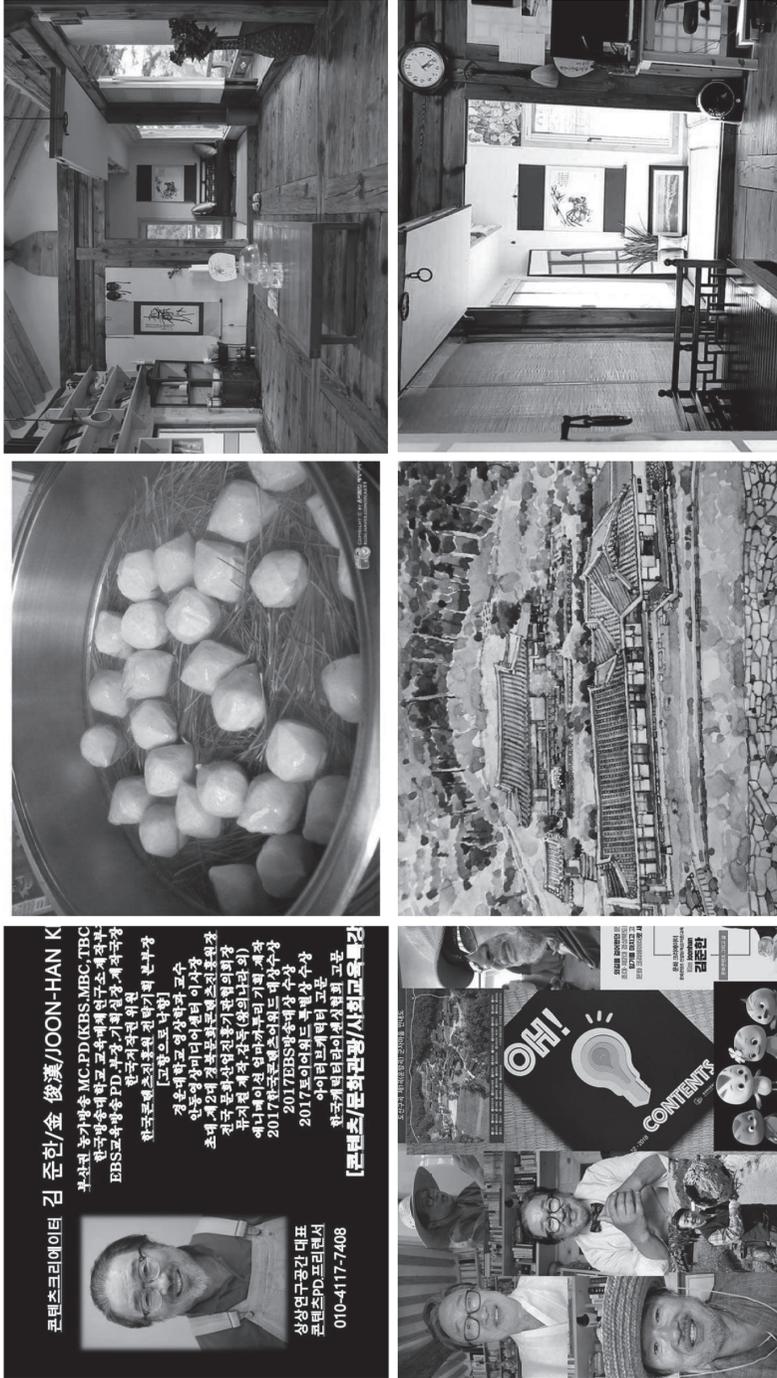
4. 韓国安東市君子村 金俊漢資料





도산구곡 제1곡(운암곡) 군자마을 안내도

① 후포정 ② 도산구곡 ③ 도산구곡 ④ 도산구곡 ⑤ 도산구곡 ⑥ 도산구곡 ⑦ 도산구곡 ⑧ 도산구곡 ⑨ 도산구곡 ⑩ 도산구곡
 ⑪ 도산구곡 ⑫ 도산구곡 ⑬ 도산구곡 ⑭ 도산구곡 ⑮ 도산구곡 ⑯ 도산구곡 ⑰ 도산구곡 ⑱ 도산구곡 ⑲ 도산구곡 ⑳ 도산구곡
 ㉑ 도산구곡 ㉒ 도산구곡 ㉓ 도산구곡 ㉔ 도산구곡 ㉕ 도산구곡 ㉖ 도산구곡 ㉗ 도산구곡 ㉘ 도산구곡 ㉙ 도산구곡 ㉚ 도산구곡 ㉛ 도산구곡 ㉜ 도산구곡 ㉝ 도산구곡 ㉞ 도산구곡 ㉟ 도산구곡 ㊱ 도산구곡 ㊲ 도산구곡 ㊳ 도산구곡 ㊴ 도산구곡 ㊵ 도산구곡 ㊶ 도산구곡 ㊷ 도산구곡 ㊸ 도산구곡 ㊹ 도산구곡 ㊺ 도산구곡 ㊻ 도산구곡 ㊼ 도산구곡 ㊽ 도산구곡 ㊾ 도산구곡 ㊿ 도산구곡









5. 韓国 심정업 沈 枉輝資料



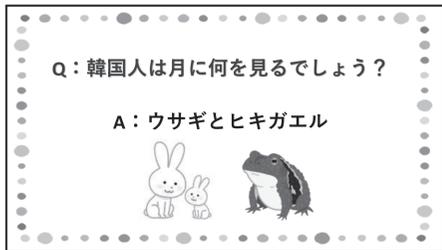
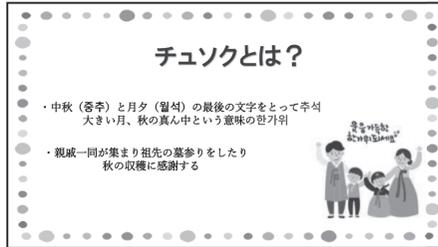
6. 在日コリアン 李信恵資料





7. 本学民俗学ゼミ生資料

2020/11/5



2020/11/5

秋夕 1カ月前

伐草 (ボルチヨ) ...墓の草抜き・清掃

ボルチヨのために戻帰りする人々の車で混雑する高速道路



お墓の清掃は子供の役目!!



秋夕 2～3週間前

親戚や取引先への贈り物を購入

売れ筋

海苔

Shim Pico ショップ

Wash 洗剤

果物

肉、魚

いらっしゃいませー



秋夕 連休直前

帰省ラッシュ

ソウル駅、高速バスターミナル⇒ 民族大移動

買い出し

市場 「茶礼床 (チャレサン)」

ナソム、ナムル、肉、魚 etc...

主婦 名節後遺症

名節に体を翻転して、名節が終わると反動で疲労力になったり体の部分々が痛くなったりする



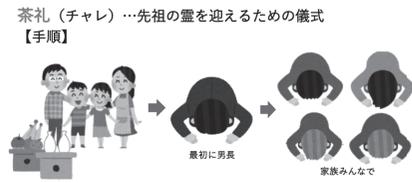
秋夕 当日の朝

茶礼 (チャレ) ...先祖の霊を迎えるための儀式

【手順】

最初に男長

家族みんな



墓参り

【ウンヨンさんの家の場合】

男性陣だけがお墓参りに行き 큰절で敬拝する

【ジョンヨプさんの家の場合】

男女どちらもお墓参りに行き 큰절で敬拝する

큰절 (クンジョル)



参考文献

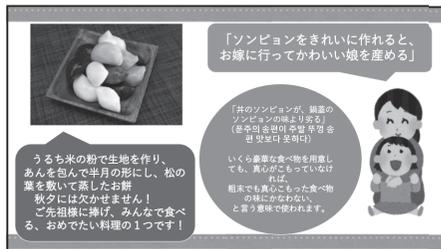
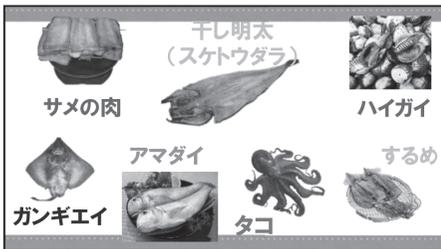
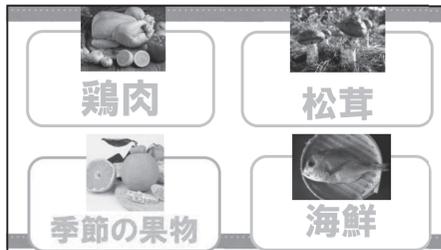
チュソクの墓参り

http://www.city.tsushima.nagasaki.jp/live/kouhou/images/200709/200709_10.pdf

チュソクの一か月

https://www.konest.com/contents/korean_life_detail.html?id=435

2020/11/5



2020/11/5

ソンピョンの作り方

・材料

米粉または上新粉	500g
水（ぬるま湯）	2カップ
塩	少々
あんこ	500g
ごま油	少量

1. 米粉に水（ぬるま湯）2カップを一度に注ぎ、よく混ぜて一塊にする。

2. 一塊になった皮部分を、500円玉ぐらい手に取って、餃子を作る要領で皮を伸ばし、あんこを中に入れて包む。



3. 蒸し器に水で湿らせたキッチンペーパーなどを引き、10～15分程度蒸らす。

4. 蒸しあがったら、冷まし、表面にごま油を塗って完成。



参考文献

スライド11・12
https://www.konest.com/contents/korean_life_detail.html?id=437

スライド15
<https://www.iloveseeoul.co.jp/hpgen/HFB/entries/202.html>

ソンピョンの作り方
クックパッド 韓国伝統☆ソンピョン
<https://cookpad.com/recipe/602061>

ありがとうございました！



